

日本のゲートボール発祥の地は芽室町です。

東京芽室会 会長 栄前田 勝 良



日本も高齢化社会で日本人の平均寿命は男性が80・79歳、女性が87・05歳と発表された。シニア世代が増えて元気に活躍しているが、シニアスポーツといえばゲートボールを思い浮かべる人が多い。頭脳9割、体力1割といわれ運動量が格段に少ないスポーツで1チーム5名で戦うチームプレイである。

昭和22年に十勝・芽室町に在住していた鈴木和伸氏によって考案された。鈴木氏は戦後、遊び道具のない子供たちのためにイギリスのクロケットを参考に考えたゲームであった。道具の改良、ルールの設定と苦勞を重ね普及に努めた。それが、高齢化社会の急速な進行に伴って、手軽なスポーツとして老人の間で爆発的な人気を呼んだ。

「別海ふるさと会」頑張ります！

東京・別海ふるさと会 会長 新家 鶴 男



本年5月、別海町長水沼猛(67歳)氏が現職3期半ばで急逝しました。心よりご冥福をお祈りいたします。

警視庁(就職)へ。39年東京オリンピックを経験(代々木会場での道案内等に従事)しました。その後多くの出会いと別れを繰り返して、平成17年3月定年退職しました。

故人は温厚・実直、大変に親しみのある方で、去る4月の定期総会でお会いしたばかりでした。葬儀には高橋はるみ北海道知事はじめ新党大地鈴木宗男氏など大勢の方々が弔問に訪れていました。

発足時から御年71歳の今日もまだ、続けさせていたたいおられます。さて我がふるさと会をご紹介しますと、

さて私は、昨年3回帰郷しましたが、年(時)とともに「ふるさと」は近くにあつて肌で感じるもの」という想いを強く抱くようになりました。(皆さんも同じ思いでしょうか。)

喜寿(七十七歳)・傘寿(八十八歳)は相談役・重鎮となる。しかし米寿(八十八歳)になってもまだまだこき使われそう。そろそろ誰かにゆずろうかと周りをみても譲れる人影が見当たらず(皆さんの会はいかがでしょうか)。だから年を気にせず元気で泣きごとやわらずに頑張るしかありません。

顧みまずと、昭和25年7月(5歳の時)、西別(別海町)原野で行方不明となり、当時の新聞見出しは「4日間水ばかり飲んで、鶴男ちゃん奇跡的に助かる」と報じていました(先日の「函館の小學生」にはかきません)。昭和38年中標津高校を卒業と同時に上京、



東京・別海ふるさと会は今

のである。日本ゲートボール連合の記録にも発祥の地は北海道・芽室町と記され、芽室町にはコート3面を有する室内ゲートボール場があり、ゲートボール資料館もある。

減少化にはいろいろな原因があるが、元気が高齢者が大幅に増え運動量の多いパークゴルフ、グランドゴルフ、そしてスポーツクラブへと老後の運動の多様化がある。加えて団体競技のゲートボールの人間関係の難しさを嫌い、個人プレーのパークゴルフなどへ移っていく傾向にある。それでも、芽室町はゲートボール普及に努め、小学生のゲートボール教室の開催、高校の部活動としてのゲートボールへとすそ野を広げている。

「ふるさと東神楽町」の発展と

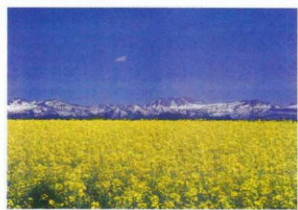
「東京東神楽会」の役割

東京東神楽会 会長 安 井 規 雄



1、東神楽町は、旭川市に隣接し、面積は68・50平方キロメートル、人口は平成25年10月に1万人を超え、平成28年5月現在1万362人となり、人口が増加している町です。

東神楽町は、大雪山連峰のふもとに位置し、道北の空の玄関口として知られる旭川空港があり、清流と森に抱かれる自然あふれる町です。



志比内地区の菜種畑

2、また、花いっぱい運動に始まる、花のまちとしても有名で、数々の賞も受賞しています。

さらに、農業の分野では、「農業法人の育成」や「農業後継者の確保」、「農業経営の安

中国、台湾や韓国などに就航しており、海外との経済交流を強固なものにしていくことも重要ではないかと思えます。

も、微力ではありますが「愛・力・絆」(会のモットー)を大切に別海町の応援団として頑張ります。皆様様の温かいご声援ご支援をよろしくお願いたします。

東京東神楽会としましては、産直フェアなどを通じて、東神楽町の魅力を多くの人々に知らせていきたいと思えます。